

大阪市立 天下茶屋 中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

【学校教育目標】

人間尊重の教育を一層深化・充実し、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

1 学校運営の中期目標

【視点1 学力の向上】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の無答率を平成 24 年度より減少させる。（カリキュラム改革関連）
- 校内アンケート調査を実施し、「授業(学習)が楽しい」と回答する生徒を年々増加させるなど、学習意欲を高めていく。（カリキュラム改革関連）

【視点2 道徳心・社会性の育成】

- 「健やかで豊かな心をはぐくむ教育」を推進し、平成 27 年度末までに「学校が楽しい」と回答する生徒が 80%以上になることをめざす。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末までに、生徒アンケート調査「学校のルールを守るようにしている」の項目で、『よくあてはまる』『あてはまる』と回答する生徒を 85%以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点3 健康・体力の保持増進】

- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の合計得点において、男子は現状維持、女子は大阪市の平均程度を目指す。（カリキュラム改革関連）
- 健康についてのアンケート調査を毎年実施し、健康に関する意識を高める。（カリキュラム改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点1 学力の向上】

- 生徒アンケート調査「授業が分かりやすいか」の項目において、『よく当てはまる』『あてはまる』の回答率を、平成 24 年度より上昇させる。（カリキュラム改革関連）
- 全生徒を対象に漢字検定・数学検定・英語検定を実施するにあたって、自己目標設定を立てさせ、希望する級での合格を目指す。（カリキュラム改革関連）

【視点2 道徳心・社会性の育成】

- 「健やかで豊かな心をはぐくむ教育」の充実に向けて、「人権・平和について考える」取り組みや、「芸術に触れる」行事を実施する。（カリキュラム改革関連）
- 生徒アンケート調査「学校のルールを守るようにしている」の項目で、『あてはまる』と回答する生徒を 80%以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点3 健康・体力の保持増進】

- 50m 走と 20m シャトルランを体育の授業に位置づけ、男子は現状維持、女子は大阪市の平均に近づける。（カリキュラム改革関連）
- 部活動の活性化を図り、運動部の加入率を平成 24 年度より上昇させる。（カリキュラム改革関連）
- 生徒一人ひとりが自己の健康維持についての認識を高めるため、保健だよりや学年集会で啓発活動を行う。（カリキュラム改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度 4 月に実施した全国学力・学習状況調査では、数学 B 問題の無答率が 31.5%となるなど、各教科とも平均無答率はなお高い状況にあった。生徒アンケートで「学校の授業はわかりやすい」と答えた生徒は 56.9%（昨年度 55.6%）であり、徐々にはあるが、研究授業等の成果が表れている。「学校生活が楽しい」と回答した生徒は 71.4%、「学校のルールを守るようにしている」と回答した生徒は 81.1%であった。学校生活の充実にむけて、さらに取り組んでいく必要がある。

校長戦略予算を活用して、全学年で漢字検定・数学検定・英語検定を実施する予定であったが、審査結果が次点となり予算全額を確保できなかつたため、漢字検定のみ 1・2 年生で実施。数学検定・英語検定については実施に至らなかつた。次年度、再度チャレンジしたい。

今年度の「全国体力・運動能力調査」から男女とも俊敏性に関する調査項目（反復横跳び）では、全国を上回る結果となっているが、柔軟性に関する項目調査では府平均を下回るなど課題が残る。体育的行事等を通して、体育に対する興味関心を深めていく。「子どもの健康」に関しては、保健室便りの発行や、外部講師による熱中症予防に関する指導など啓発活動ができた。また、校医 4 名・PTA 役員・実行委員を含んでの学校保健委員会を実施できたことは大きな成果である。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

(様式 2)

大阪市立天下茶屋中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

年度目標	達成状況
【視点1 学力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート調査「授業が分かりやすいか」の項目において、『よく当てはまる』『あてはまる』の回答率を、平成 24 年度より上昇させる。(カリキュラム改革関連) 全生徒を対象に漢字検定・数学検定・英語検定を実施するにあたって、自己目標設定を立てさせ、希望する級での合格を目指す。(カリキュラム改革関連) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】 教科指導の向上を図るために、実施計画に基づき校内研究授業の充実を図る。	B
指標 校内研究授業を全学年・全クラスにおいて 1 回以上、実施する。	
取組内容②【区分 若手教員の研修の充実】 若手教員の育成にむけて「教科指導」「生徒指導の心構え」等の研修を実施する。	A
指標 若手育成のための研修会(天下茶屋プロジェクト)を年 4 回実施する。	B
取組内容③【区分 自主学習習慣の確立】 国語・数学・英語で検定試験を受けさせ、達成感を味わわせる。	
指標 一人ひとりに自己達成目標を設定させ、国語・数学・英語検定に取り組ませ、希望する級での合格率を年々上昇させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

生徒アンケート調査「授業が分かりやすいか」の項目において、『(よく)あてはまる』と回答した生徒が 56.9% であり H24 年度(55.4%)を 1.5 ポイント上回った。『(まったく・あまり)当てはまらない』との回答は 7.7 ポイント減少した。(『判断できない』18.5% [H24 年度 12.3%])

取組内容① 校内研究授業を全学年・全クラスで実施し、目標どおり達成できた。

取組内容② 天下茶屋 PJ による研修会を 5 回開き、若手教員からの実践報告、また先輩教員の経験談を聞く機会を持つなど、生活指導・教科指導のあり方等について研修を行った。

取組内容③ 1・2 年生全員に目標設定を立てさせたうえで自主学習に取り組ませ、漢字検定を実施した(結果は 3 月中に返却予定)。数学検定・英語検定は実施できなかった。

【取り組みの進捗状況】

研究授業等については、9 月 7B 研究会にて研究授業(1 年 国語・理科・道徳)、11 月校内研究授業(2 年国語・数学・理科)、1 月校内研究授業および道徳研修会(3 年全クラス道徳)を実施するなど、充実した取り組みができた。また、「若手育成のための研修会」(天下茶屋 PJ)は年間 5 回実施し、若手をはじめ全教員が熱心に取り組んだ。検定試験については、校長戦略予算で予算確保できた漢字検定を 1 月末に実施。「数学・英語」検定については戦略予算が確保できず、実施を断念。

次年度への改善点

- 『授業が分かりやすい』と答える生徒がさらに増えるよう、教科指導力を向上させるために研修会・研究会等のさらなる充実を図る。
- 校長戦略予算で、漢字検定の継続ための予算、および新たに数学検定の実施に向けての予算の確保ができるよう戦略を練る。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

(様式2)

大阪市立天下茶屋中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

年度目標	達成状況
【視点2 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 「健やかで豊かな心をはぐくむ教育」の充実に向けて、「人権・平和について考える」取り組みや、「芸術に触れる」行事を実施する。(カリキュラム改革関連) 生徒アンケート調査「学校のルールを守るようにしている」の項目で、『あてはまる』と回答する生徒を80%以上にする。(カリキュラム改革関連) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 人権・平和教育の推進】 外部講師による講話や体験学習を行う。 指標 平和教育・障害者教育・性教育について外部講師を招き、それぞれ1回以上講話等を持つ。	B
取組内容②【区分 情操教育の推進】 人や自然と触れあたり、伝統文化・芸術を鑑賞する機会を持つ。 指標 芸術鑑賞を1回実施する。また、園芸や緑化活動、お茶会(文化祭で実施)を通じて地域と交流する。	B
取組内容③【区分 生徒会の活性化】 生徒会の活性化を図るため、校内美化活動等に取り組む。 指標 生徒会主催の自主清掃活動を学期に1回実施するよう指導する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

7B研究会で「道徳」の研究授業・研究協議をするとともに、3学期3年生全クラスで「道徳」の校内研究授業に取り組んだ。同時に外部講師を招き研修会を実施した。

生徒アンケート調査「学校のルールを守るようにしている」の項目で、『よく』あてはまる」と回答した生徒は81.1%とあり、H24年度(78.7%)を2.4ポイント上回った。『まったく・あまり)当てはまらない』との回答は8.8%(H24年度12.7%)。(『判断できない』10.1% [H24年度8.6%])

取組内容① 平和教育・障害者教育・性教育について、講師を招き、それぞれ1回ずつ講話を聴いたり、体験学習等を実施したりした。

取組内容② 12月芸術鑑賞、6月・3月(予定)玄関付近の花の植え替え、2月お茶会を実施した。

取組内容③ 生徒会主催の自主清掃活動を1学期に1回実施。また、「おおさか子ども市会-中学生市会-」に生徒会役員4名の参加、あいさつ運動、全校集会の自主運営など、生徒会活動の活性化に向けて積極的に取り組んだ。

【取り組みの進捗状況】

8・6平和・人権登校日、外部講師による被爆体験講話、3年生対象の外部講師による「性感染症」に関する講話などの取り組みを積極的に行い、一人一人の生徒が平和や人権について深く考えさせることができた。また、和太鼓の鑑賞や『茶会』において、日本の芸術や伝統文化に触れ、学校元気アップボランティアの支援のもと取り組んだ。玄関周辺の園芸活動では地域の人や自然に親しむなど、豊かな心をはぐくむ教育に取り組むことができた。規範意識の育成に関しては「学校のルールを守るようにしている」生徒が増加しているように、生徒会活動などをはじめ、教職員や生徒の積極的な取り組みが徐々に効果を上げている。

次年度への改善点

- 取り組みを行う上で、間際にになって準備に追われることがないよう、前もって計画を綿密にしておく必要がある。
- さらなる規範意識の向上をめざすために、教職員の共通理解のもと、学校秩序や授業規律の確立が必要である。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

(様式2)

大阪市立天下茶屋中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

年度目標	達成状況
【視点3 健康・体力の保持増進】 <ul style="list-style-type: none"> ・50m走と20mシャトルランを体育の授業に位置づけ、男子は現状維持、女子は大阪市の平均に近づける。(カリキュラム改革関連) ・部活動の活性化を図り、運動部の加入率を平成24年度より上昇させる。(カリキュラム改革関連) ・生徒一人ひとりが自己の健康維持についての認識を高めるため、保健だよりや学年集会で啓発活動を行う。(カリキュラム改革関連) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 体育の授業の充実】 50m走と20mシャトルランを体育科授業に位置づける。	B
指標 個々の生徒に目標設定をさせ、走・跳の記録を取る。	B
取組内容②【区分 体育的活動の充実】 部活動の活性化を図る。	B
指標 運動部の加入率を平成24年度より上昇させる。	
取組内容③【区分 健康な生活習慣の確立】 ・「保健だより」を活用し、病気やけがの防止について啓発活動を行う。	A
指標 ・「保健だより」を毎月発行する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全国体力・運動能力調査の体力合計点において、男子は、府を0.36ポイント上回っているものの、全国より1.39ポイント下回っている。女子は、府を0.69ポイント、全国を2.64ポイント下回っている。部活動の加入率は1年生において、91.3%(運動系87%、文科系4.3%)と伸びている。

また、健康の保持・増進について、学校医・教職員・生徒・PTAによる「学校保健協議会」を実施するなど、体と健康、疾病予防等について考える機会を持つことができた。

取組内容① 全学年とも体育の授業で50m走とシャトルランに取り組み、体力の増強に取り組んだ。

取組内容② 部活動については、4月部活動オリエンテーションを実施するなど広報活動を展開し、入部する生徒が増えた。

取組内容③ 「保健だより」を養護教諭が毎月発行し、疾病予防等について啓発活動を行った。また、外部講師による「性感染症」「熱中症対策」などの生徒向け講演を実施したり、学年集会等でインフルエンザ予防について啓発を行うなどして疾病予防等の意識の高揚をはかった。

【取り組みの進捗状況】

体力・運動能力については個人差が大きく、種目ごとに個々の目標を立てさせ、達成に向けて取り組んだ。その成果として、回を重ねるごとに記録が伸びていくことの喜びを感じさせ、達成感を味わわせることができた。部活動については、顧問が保護者会を開くなどして保護者の協力を得、安心して活動できる環境づくりに努めた。

運動能力の向上にも本校初めての試みとして、校医4名、関係教諭、保健委員生徒、PTA関係者が一堂に集い「学校保健協議会」を開催したことは、大きな成果であった。

次年度への改善点

- ・部活動については、入部後、退部してしまう生徒も多いので、今後は、しんどいことでも継続する力をみにつけさせることが必要である。
- ・体力・運動能力調査から、本校生徒は男女ともに握力・反復横とびなど瞬時の力を出すことは得意であるが、シャトルランなど持久力を要するものが苦手な生徒が多いので、持久力や忍耐力養うことが今後の課題である。